

言葉を使わない魔法の子育て



ストレスフリーの 子育て術

一般社団法人国際TAW協会

はじめに

フラクタル心理学 開発者 一色真宇

子育て中のあなたへ。子育てを楽しんでいらっしゃいますか？

独身の頃、他人の子どもは別にかわいいとは思わなかった人でも（ほとんどの人がそうですが）、自分の子どもはとてもかわいいと感ずます。

その寝顔。小さな手。ふっくらしたほっぺ。新しい服を着せたときのかわいさ。もう、本当にかわいいです！

そして、わがママを言って困らせて、大いに怒っても、またふざけて笑い合う。その笑顔！これが家族の愛です。

そして、子どもたちも思春期になり、生意気なことを言ったり、ちっとも親と遊ばなくなったりしても、それもまたうれしいもの。

子どもが自分の手から離れていくことこそが、母親にとって、一番ありがたいご褒美です。そのうちに、娘の服を借りたり、自分のを貸したり。息子の運転す

る車に乗せてもらったり、力仕事を手伝ってもらったり。そんなことができるようになるのも親冥利に尽きますね。

でも、ちょっとしたことで、子育てにつまずいたり、苦しんだりすることがあります。そんなときは、ささいな知識が足りなかったり、勘違いをしていたり、直す方法を知らなかったりしているのです。

フラクタル心理学 家族関係コースは言葉を使わない魔法の子育ての方法を学ぶプログラムです。しつけないとても役立つ知識がいっぱいです。それは、子どもが何歳になっても使えるのです。

この小冊子では家族関係コースの知恵の一部をご紹介します。一般の子育て論とは違う、「思考が現実化する」というシステムを応用した子育て法です。家族関係コースを学ぶと、子育てはもちろん、あらゆる人間関係がラクになります。

この小冊子で、フラクタル心理学を学んで幸せになった皆様の声を聴き、あなたの人生にもぜひ役立ててください。



目次

はじめに	・・・・・・・・ p.1
受講生パパからの体験談	・・・・・・・・ p.5
母親は、子どもを愛しているから怒る	
受講生ママからの体験談	・・・・・・・・ p.9
夫は失業。保育園には入れない。それが一度に解決した！	
受講生ママからの手紙 1	・・・・・・・・ p.16
「怒っていても、愛がないわけではないんですね！」	
一色真宇からの解説 1	・・・・・・・・ p.17
・絆が深ければ、怒ってもしこりにならない	
受講生ママからの手紙 2	・・・・・・・・ p.19
「トラウマも必要なときがあるんですね！」	
一色真宇からの解説 2	・・・・・・・・ p.20
・子どもの良い未来をイメージする	
受講生ママからの手紙 3	・・・・・・・・ p.22
「子どもの姿は、自分の姿だとよくわかりました！」	
一色真宇からの解説 3	・・・・・・・・ p.23
・子どものやり方は、自分の隠されたやり方	

受講生ママからの手紙 4	・・・・・・・・ p.25
「子どもを産めるほど、成長できたんですね！」	
一色真宇からの解説 4	・・・・・・・・ p.26
・「誰よりも自分を優先して」は子どものころ	
受講生ママからの手紙 5	・・・・・・・・ p.27
「人を変えられるってすごい！」	
一色真宇からの解説 5	・・・・・・・・ p.28
・自分が変わるとまわりも変わる	
フラクタル心理学 教育心理コース	・・・・・・・・ p.31
勉強が好きになる	
プログラム紹介	・・・・・・・・ p.32
フラクタル心理学 家族関係コース	
一色真宇プロフィール	・・・・・・・・ p.34

母親は、子どもを愛しているから怒る

(2013年5月 福岡県在住 野口 雄大様)

私はフラクタル心理学と出会うまで、家族関係で大きなストレスを感じていました。その原因は結婚3年目で生まれた長女の育児について、妻との間で生じた意見の食い違いです。

私の第一子となる長女は2010年11月に生まれましたが、その際に口蓋裂という病気を持って生まれ、口の中に器具を入れないとミルクが飲めない状態でした。私たち夫婦は親元から離れており、妻にとって初めての育児でありながら、頼りになる人がおらず、育児のストレスは並大抵のものではなかったと思います。

そんな妻のイライラしたところを見るたびに、私も妻に対してイライラしていました。特に妻が子どもに大きな声で叱っていたときは、妻から子どもを取り上げて子どもを慰めていました。「なぜ、妻はもっと子どもにやさしくできないのだろう？」と日々疑問に思

っていました。次第に夫婦関係も険悪なものになり、私は心理カウンセリングを受けるようになりました。何度かカウンセリングを受けるうちに私は心理の世界の扉を開け、より深く学ぶ必要性を感じていました。

そして2011年の12月にフラクタル心理学と出会いました。フラクタル心理学を学ぶ中で私は自分の母親への思いを見直す必要があることに気づきました。私の母はとても厳しい人で、幼稚園から小学3年生くらいまで、よく大きな声で怒られたり、ときどき手をあげられたのを覚えています。いつからか母を怒らせることが恐怖となり、母を怒らせないような振る舞いを常にするようになりました。そして「いつも怒ってばかり」の母を恨んでいました。

フラクタル心理学を学んでいくうちに、母が怒るのは必ず自分のしわざであることに気づきました。また母親に怒られないような振る舞いを身に付けたことが、社会人となったときの自分にとっても大切なことであったことにも気がつきました。母はいつも、私をしつけるために怒っていてくれたということにやっと気づいたのです。私の母はとても愛のある人だったのだと知ったのは、フラクタル心理学と出会ってから約

2か月後のことでした。

母の子育てに対する思いに気がついたとき、妻が子どもを叱ることにストレスを感じなくなっていました。子どもを叱ることは母にとっての愛であり、将来子どもが社会に出る時の大きな支えになることが想像できたからです。

また、この経験は同時に、私の仕事においても大きな変化をもたらしました。今まで近寄りがたい存在だった厳しい上司に対する思いが変わったのです。フラクタル心理学では、親子関係は人間関係の基本であると言います。まさか、親子関係が上司との関係につながっているとは思いませんでした。

厳しい上司が怒鳴るのは、部下に対する愛、そして仕事に対する愛情そのものであることに気がつき、厳しい上司とも非常に親密な関係を築くことができました。

そのお蔭もあり2012年5月には今まで希望していた職場に配転することが叶いました。とても厳しい職場ですが、大きなやりがいのある仕事です。その後の私の家庭では長女の病気の手術が無事に終わり、2人目となる次女が誕生し、家族4人の楽しい生活を送っています。もちろん子どもが言うことを聞かない

こともあり、ときどき妻の大きな声が響きますが、それがストレスとは感じなくなりました。

フラクタル心理学を学んでみて、親に対する自分の思いが自分の人生にどれだけ多くの影響を与えているかを身をもって知ることができました。逆に考えると、親に対する自分の思いを見直すことで、自分の生活、人生を大きく変えることができるということです。

是非、多くの方にフラクタル心理学を知っていただきたいと思います。



受講生ママからの体験談

夫は失業。保育園には入れない。 それが一度に解決した！

(2013年5月 熊本県在住 岡村 幸枝様)

私は、看護師として4年間勤めていましたが、結婚と同時に看護師を辞め、一人娘を授かりました。主人は某企業の社長代理として働いており、とても平穏で幸せな日々を過ごしていました。

娘の夜泣きや断乳、トイレトレーニングなど悩んだ時期もありましたが、娘の成長とともに悩みも薄らぎました。娘が3歳になる頃には、私も、もう一度働きたいとうずうずしていたのです。

そこで、保育園の申請書を市役所へ何度も出してみたのですが、申請書を出しても出しても申請がおりず、娘は保育園に入れられない状態でした。

2006年12月のことです。いつものように仕事から帰宅した主人が、玄関まで迎えに出た私に、思いがけない一言を告げたのです。

「俺、仕事を辞めてきた…」

目の前が真っ暗になり、頭を金づちで殴られたような衝撃が走りました。

「は？ 今、何て言ったの？」

主人の口からは説明らしい言葉はなく、なんでこんなことが起こってしまったのかまったくわかりませんでした。

それから、今まで仕事に行っていた主人も、朝は遅く起き、フラ～っと外に出ていき「仕事、見つからなかった」と帰ってくる毎日となりました。そんな主人を見ているとイライラとして「早く働けばいいのに。本気で見つけようとせんから見つからんとよ！」と心の中で思う毎日で、話すのも嫌なほど主人に対して腹を立てていました。

2007年3月にフラクタル心理学の家族関係コースに出会い、衝撃を受けました。娘が保育園に入れない理由も、主人が無職になったことも、すべて私の心が起こしているというのです。最初はということかわかりませんでした。

家族関係コース「自分が母親から欲しかったものを自分の子には与えたいと思う」と書いてあります。保育園に入れない娘を見ながら、実は、私が娘には母親がそばにいて甘えさせてあげたいのだと気づいたのです。

そう気づくと、幼い頃の自分の気持ちがあふれてくるのです。

「お母さん、私のそばにいて～」

「お母さん、もっと私の世話をして～」

私はずっと、自分の母にそう思っていました。

そして、娘がいつまでたっても保育園に入れないのは、私のこの思いが影響しているのだと気づいたのです。私が娘を手放せなかったのです。娘と幼い頃の自分を重ね合わせてみているために、娘にはさびしい思いをさせない、ずっとそばにいてあげると思っていたのでした。

また、続けて受講したフラクタル心理学マスターコースでは、「人に言いたいことは自分に言いたいこと」と学びました。主人に対して「早く働けばいいのに。本気で仕事を見つけようと思んから見つからんとよ！」と私は言いたかったのですが、実はその言葉は私に言いたい言葉だったのです。

私自身、働きたいと口では言いながら、心の中では、主人が稼いでくるお金でゆっくりと暮らしたいという思いがあったからです。本気で仕事を探そうとしていなかったのは私でした。

自分の怠け心に気づくと、子どもの頃、自分が母親

を求めていたことさえ、結局は、ただ自分は動かずに母に世話をされたかったのだという甘えなのだと気づいてきたのです。

保育園に入れないと嘆いているように見えた私ですが、実は結果的に望んだとおりになっていたのです。

自分の怠け心に気づくと、「本気で働くぞ！」という思いが湧いてきました。私は、どうしてもこの状況を抜け出したかったのです。

そこで、どうにかして働くところはないかと考え始めました。子どもを一時保育に預けても働く！という思いでした。それでも思うような仕事は見つからなかったのですが、ふと、お好み焼屋を経営している叔母を思い出したのです。

それは2007年5月のことでした。ダメ元で叔母に頼んでみようと思いました。行くときになって頭を下げたくない自分もいて葛藤もありましたが、働く！という思いが強かったのでしょう。

叔母に事情を説明し、叔母に対して頭を下げたことがなかった私が、頭を下げ、頼みこみました。すると、叔母は二つ返事で「いつから働くの？」と聞いてくれました。

断られると思っていたので、あまりの早い展開に呆然としていましたが、1週間後に働くことに決めたのです。

私は、その足で市役所に向かいました。いつも担当をしてくれていた職員の方に、「私はどうしても働かなくてはいけないんです。子どもを預けないと仕事ができないんです。どうにかありませんか？」と訴えると、担当の職員の方が「これは、就労予定証明書です。これを働くところで記入してもらい、提出してください。すると1週間以内には許可がおりますよ」と書類を渡してくれたのです。

今まで、何度この窓口に通ったかわかりません。この担当の方とも何度もお話をしているのに、一度も聞いたことがなかったお話でした。

私は再び叔母のところに戻り、書類を記入してもらい、その日のうちに書類を提出することができました。職員の方も、「1週間内に通知がおります。これで保育園に入れると思いますよ。」と行ってくださったのです。

これで、娘の保育園と私の就職が一度に決まり、このことを主人に話そうと家で主人の帰りを待っていると、いつものように主人がフラ～と帰ってきたので

す。

「ただいま」という主人に今日あった出来事を話そうとしたとき、主人の口から思いがけない言葉が飛び出したのです。

「俺、就職が決まったから」

なんと、今まで悩んでいた娘の保育園、私の就職、主人の就職まで一度に解決してしまったのです。思わず、鳥肌がたちました。本当に私の心がすべてを作っていたのだと証明するような出来事でした。

その後も、私が仕事に真剣になれば、主人も成功するだろうと思って頑張ると、同じように主人も仕事を頑張り、今では、会社の中で主人がいないと会社が回らないような重要なポジションについています。私も2年後にはお世話になったお好み焼き屋を辞め、それからある会社の営業所を任されるようになりました。叔母も応援してくれました。現在、娘は小学4年生になり、とても良い子に育っています。

子育てや夫婦間の問題もフラクタル心理学のおかげでみるみる解決できるようになっていきました。今では、仕事に励みながら落ち着いた子育てができ、充実した毎日を送れるようになりました。



家族関係コースを学んだ

ママの感想と解説

受講生ママからの手紙 1

「怒っていても、愛がないわけではないんですね！」

(まゆみ)

下の子は女の子だからなのか、無条件でかわいいです。なのに、上の子（男の子）に対しては腹が立つことがたびたびあり、つい怒ってしまいます。

二人とも小学生ですが、上の子が勉強しないでテレビを見ていると、つい怒ってしまいます。でも、下の子が同じようにテレビを見ていると、腹が立たず、「まあ、いいか」と思えるんです。それを見て、また息子が怒ります。「なんで僕にだけ怒るの?!」と。

そして、上の子を怒った罪悪感にかられて、「上の子を愛していないのではないか?」と思ったりしています。平等に愛さなくてはいけないとわかっているのですが、なかなかそうできていません。

でも、フラクタル心理学を学んで、「怒っているからといって、愛していないわけではない」と書いてあったので、少し安心しました。そう、やっぱり愛しているんですね。

一色真宇からの解説 1

- 絆が深ければ、怒ってもしこりにならない

子育ては大変ですから、つい怒ってしまいますね。それをあまり気にしないでくださいね。

怒ること自体は、問題ではありません。よく考えると、それほど決定的にひどい怒りかたをしているということではないでしょう。

一般的に言って、母親は上の子とのつながりがどうしても強くなります。しかも、第一子長男ですと親たちの将来にも影響してきます。将来のことを考えて、「勉強させなくては」と思うのです。それで、つい厳しくなり、その結果として、イライラして怒ってしまうのです。

それは、将来を思う親の愛の裏返しです。

女の子で、特に下の子ですと、「まあ、女の子だから、この程度でいいか」と思ってしまいます。逆に、これは将来のことを長男ほどには考えていない、ということにもなります。

ですから、怒る、怒らないで、愛の量を測ることは

できません。将来が関係しているのです。

その証拠に、よく考えてください。子どもたちが大きくなったとき、どちらが最後まで自分のところに残ると思いますか？

意外にも、いまかわいいと思っている子よりも、いつも怒っている子のほうが自分のそばにずっと残るような気がしませんか？

それこそが、自分との絆の深さです。それは、よく怒るとか、いつもかわいがっているということとは別なものなのです。

絆さえしっかりしていれば、怒っても問題ないのです。もちろん、「かわいそうなことをしたなあ」とあなたが思うならば、それは心の中でしっかりと抱きしめてあげてくださいね。そして、「怒ってごめんね。大好きよ」と言ってあげましょう。

実際に身体を抱きしめるよりも、心の中で抱きしめるほうが、絆を深めるには効果的なのです。

もちろん、心の中で抱きしめたあと、実際の身体を抱きしめると、ベストです！

受講生ママからの手紙 2

「トラウマも必要なときがあるんですね！」

(れいこ)

もうすぐ3歳になる息子がいます。以前は、いろいろな事件やまわりの人の話を聞いて、「自分の子どもは不良になったりしないだろうか？ なにかのトラウマを作って、性格の曲がった子にならないだろうか？」といつも不安を感じていました。

しつけにしても、「ここまで怒っていいのだろうか？ それとも、もっとやさしくすべきだろうか？」といつも迷っていたのです。

でも、フラクタル心理学を学ぶと、「できごとは問題ではなく、それをどう受け取るかが問題」とわかりました。さらに、ある程度のトラウマは必要なもので、それがないと逆に性格が悪くなるのだということも知りました。

私自身、よく考えるとトラウマだと思っていたものが、役に立っていることに気づきました。

いつも心配ばかりするよりも、「自分の子どもは良い子になる！」と信じるほうが大切ですよね！？

一色真宇からの解説 2

- 子どもの良い未来をイメージする

子どもの頃、「静かにしなさい！」と母親に怒られて、「静かにしなければいけないんだ」と思ったので、それ以来おとなしくなった、という人がいます。しかし、その人は今でもたいへんよくしゃべる人なのです。このような人は少なくありません。

もし、心の傷になるくらい怒られなければ、今頃はもっとしゃべる人になっていたでしょう。想像するだけでゾッとしますね。(^_^)

私たちは、子どものときには「そんなに厳しく言わなくて…」と思いますが、実際には、「厳しく言わなければ子どもは言うことを聞かない」ということを、いま母親であるあなたは、よく知っていますよね。子どもは理屈などありませんから、いくらやさしく理屈を言っても、聞かないのです。最後には怒るしかありません。

ですから、私たちの親が怒ってくれたのは、本当に

必要なことだったのです。それ以上、やさしくする必要もなかったのです。

これをちゃんと認めると、自分が自分の子どもに対してしているしつけや世話も、「十分にやっているなあ」と感じられますし、自分が親のしつけを恨まずに、「本当に、よく怒ってくれたなあ」と思えば、自分の厳しいしつけも肯定できるのです。

結局のところ、「自分の子が厳しいしつけによって不良になるかも」という気がするのは、自分がまだお母さんやお父さんのしつけに腹を立てていて、「あのとき怒ったことを謝らせてやりたい」とどこかで思っているからなのです。だから、「自分の子どもだって、同じことをされたら傷つくでしょう？　そして、不良になってやるって思うよね？」と、心の中で思っているからなのです。

子どもたちはとても素直な自分の鏡のようです。自分が「どうせ、お母さんのことを恨みに思うんでしょう？」と思うと、次第にそうなりますし、「お母さんのしつけはありがたいでしょう？」と思うと、次第にそうなります。

これが「思考が現実化する」ということなのです。

受講生ママからの手紙 3

「子どもの姿は、自分の姿だとよくわかりました！」

(まき)

現在2歳の男の子の母親です。うちの子は、ちょっと注意されると、床にひれ伏して嘆き悲しむかのようにいじけます。それを見ると、こちらが悪いことをしたような気さえしてきます。でも、それが実は演技だとわかってきて、イライラしてきました。

フラクタル心理学を学んだら、「子どものやり方は、自分のやり方」と書いてありました。びっくりしました。私も誰かにこんな嫌な演技をしているのかしら？

そう思って自分を観察すると、だんだん見えてきました。夫になにか頼んでも、してくれなかったりすると、「ほら、私がこうなっちゃったじゃないの！」と言いたい自分がいるのです。そういえば、母親に対してもやっていたような気がします。

私は本気で悔しい、悲しいと思っていただけ、実は演技だったんですね。息子を見たら、そう思います。そんな態度をもうやめようと思いました。

一色真宇からの解説 3

- 子どものやり方は、自分の隠されたやり方

子どもを叱る。すると、子どもが大げさに泣く。それがよくあることなら、いやになりますね。そして、「こっちが悪いことをしたみたい」という気になりますね。でも、あなたは正しいしつけをしているのですよね。

こういう態度をする子どもにイライラしてしまうのは、それが実は、「傷ついて悲しんで、自分を怒った母親を責めている」とわかっているから。

もちろん、親が自分を愛していることを当たり前のように知っていなければ、自分が悲しんでいるのを見て、親が罪悪感を感じてくれるとは思いません。

つまり、「愛を逆手にとって、相手を思い通りにしようとする」というやり方をしているので、お母さんとしては、ムカッとすることです。

さて、わずか2歳の子どものなのに、いったいどこから、こんなやりかたを覚えてくるのでしょうか？

それは、実はお母さんのやり方が「投影」されているのです。

ですから、子どものやり方でなおしたいものがあれば、一度、自分のやり方をよくチェックしてみることです。子どもがやっているやり方は、必ず、自分もどこかでやっています。

子どもは大きさですから、自分はまさか、そんな大きさにはやっていないと思いますが、程度を問わずに考えると、必ず自分もやっているはずですよ。

「自分が傷ついたふりをして、自分のことを怒った人に、反省させようとする」

というふうに言葉でまとめると、「そうそう、やってる、やってる！」と気づきます。

なにがあっても、自分で「ああ、悲しい」「ああ、つらい」などと自己暗示をかけないようにしましょう。どこかで誰かに、そんな自分を見てもらって、かまってほしいと思っていませんか？ それは大人のやり方ではありません。子どものやり方です。

「思考が現実化」します。自分が傷ついたと思い込むやり方は、不幸や悲しみをどんどん引き寄せるやり方なのだということをよく頭に入れましょう。

受講生ママからの手紙 4

「子どもを産めるほど、成長できたんですね！」

(よしこ)

家族関係コースのテキストに、こんな文章がありますね。

「成長したからこそ、子どもを産む勇気が持てた」

このごろ、日々それを感じています。私は10年間不妊でした。心の中では、「不妊」と言われることに少し安心を感じていたんです。

当時は、自分の中の「子どもごろ」がまだまだ大きかったんだな、とわかります。自分の心の中に「大人ごろ」が少ないときには、とても子どもの世話ができるとは思えませんでした。だから、産めなくてよかったと思っている自分がいました。

でも、フラクタル心理学を学んで少し心が成長すると、子どもを産むことができました。

今ならよくわかります。「産めない」ということは、自分が母親に求めすぎているということだったということが。だから、子育てが怖かったんです。それを手放したときに、私は子どもを産めたんです。

一色真宇からの解説 4

- 「誰よりも自分を優先して」は子どものころ

子育てはとても大変ですね。これは、大人の心でないとできません。子どもの頃は、「どこまでも自分を優先してほしい」と考えています。

「お母さんの都合よりも、私を優先して」

「お兄ちゃんよりも、私を優先して」

こんな子どもの頃の考えが、大人になっても残っていると、いつまでも誰かにそれを求めてしまうのです。

たとえば夫に対して、いつでも「あなた自身よりも私を優先して」と思いがちです。もちろん、夫は「そんなこと、ムリだよ」と言うでしょう。これは当たり前です。でも、あなたの心が子どものままだと、自分がないがしろにされている気がします。

こんな状態では、とても自分が子育てする気にはなりません。子育てが始まると、自分を優先してもらうことができないことがわかるからです。あなたがいま、子育てをしているということは、心がかなり大人になったということなのです。自分を誉めましょう！

受講生ママからの手紙 5

「人を変えられるってすごい！」

(ともみ)

うちの息子は学校でいじめられたりします。聞くと、私のほうがカッカしてしまいます。

フラクタル心理学では「相手に言いたいことは、自分に言いたいこと」と言います。それで、考えてみると、私は息子に対して「いつもいじけているからいじめられるのよ。いじめられっこはやめなさい！」と言いたいようです。それが自分に言いたいことなのだと思って、考えてみました。

そういえば、私が夫にいつも、近所の人に私が意地悪をされているということを言っても、夫は聞いてくれません。そうか。私ももしかすると、自分がいじけておきながら、まわりを意地悪なんだと言いたいのかもしれません。夫に味方になってほしかったんです。

そこで、家族関係コースで学んだ修正法をすると、なんと、私も息子もいじめられなくなったのです！

私の修正法が、自動的に子どもにも効き目があるなんて、本当に不思議です！

一色真宇からの解説 5

- 自分が変わるとまわりも変わる

人は、なんの理由もなく不幸な目に遭いません。それがフラクタル心理学の基本的な考えです。ですから、もしいじめられるとしたら、二つの理由が考えられます。

1. 「自分が間違っているとき」
2. 「自分がいじめられることを望んでいるとき」

もし、「そのどちらでもない」と思うときには、「まわりには意地悪な子が当たり前のように存在する」ということを信じているわけですから、これはまさしく1だということになります。それは相手を自動的に悪者だとみなしているということですから、間違いですね。

「いや、でも、実際にいじめっ子が…」とさらに言いたくなりませんか？ すると、次は2だということです。いじめっ子にいてほしいと思っているということですからね。

フラクタル心理学では「人は鏡」と教えています。「100%例外なし」なのです。つまり「あの人たちは意地悪だ」と思うのは、実は自分の中に意地悪な自分がいるからなのです。ですから、実際にそれを認めて、自分は誰に腹を立てているのか、誰をいじめたいのかを正直に考えてみると、きっとよくわかりますよ。

正直に考えてみると、自分がまわりの人をバカにしていたり、むやみに勝ちたいと欲していたりしていませんか？ それは相手に対する攻撃であり、いじわるなのです。だから、反撃が返ってきます。

そして、誰かにかまってほしいときには、いじめられるということで味方になってもらって、かまってもらおうとします。これも間違った考えですね。

フラクタル心理学には、心の修正法があります。こんな愚かな自分を見つけたとき、それを「未熟な自分」（子どもごころ）として修正するのです。すると、周りの人を意地悪だと信じ込む思いや、味方になってかまってほしいという思いが消えていきます。

すると、実際にいじめがなくなるのです。そして、あなたと同じやり方をしていた子どもも変わります。

人が変わる、子どもが変わる。そして、まわりの人とも変わります。とてもおもしろいですね！

この小冊子で紹介している理論をたった**2時間**で体験してみませんか

フラクタル心理学 教育心理コース

勉強が好きになる

勉強をしなさいとガミガミ言わなくても、あなたのお子さんが勉強するようになります。

最新のフラクタル心理学で、今までのしつけの常識とはまったく違った画期的な方法をおつたえします。

◆言葉を使わないので、言葉や理屈がわからない小さなお子様にも効果的です。

◆子どもに言葉を使って伝える必要がないので、思春期のお子様にも効果的です。

対象: 小さなお子さんから思春期のお子さんをお持ちの保護者の皆様

講座時間: 2時間

テキスト付

受講費用: 6,000円+税



本格的に 学びたいあなたはこちらへ

フラクタル心理学

家族関係コース

親子関係をはじめ、あらゆる人間関係に役立つ知恵と、心の修正法が学べる10時間のプログラムです。

◆人間関係の始まりは、親子関係。

自分の親との関係、自分の子どもとの関係、どちらも、自分を取り巻く人間関係の相似形であり、縮図です。

◆言葉を使わずにしつけができる

親と子は、もともとこころの深いところでつながっているという仕組みを活用しています。まだ幼くて言葉がわからない子どもにも、言葉を使わずにしつけができます。

◆あらゆる人間関係が劇的によくなる

人間関係は幼児期の親子関係がベース。こころを修正することで、現在のあらゆる人間関係が自然によくなります。

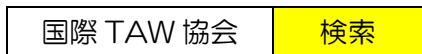
講座日数：2日間

テキスト・CD付

受講費用：30,000円＋税



プログラムに関する詳細は、国際 TAW 協会、もしくは全国のステーションにお問い合わせください。各ステーション情報は、国際 TAW 協会ホームページ <http://www.taw.ac/> にてご覧いただけます。



トップページの「ここで学べます」をクリックすると、全国のステーション情報を閲覧できます。

フラクタル心理学開発者

一色真宇（いっしき まう） プロフィール



1957年2月生まれ。1979年大阪大学(旧大阪外国語大学)卒業後、結婚し2児を育てる。

その後、第一子長男の子育てに悩み、心理の勉強を始める。2000年より心理セラピストとして開業するや、たちまち予約の取れないセラピストとなる。2007年までに5000人以上のクライアントのセラピーを行ううちに、「思考が現実化する」という仕組みを解明し、心理と物理が連動してフラクタル構造になっていることを発見する。これを応用して、親子関係に現れる現象を、言葉を使わずに解決する簡単な方法を見出す。

2007年にフラクタル心理学「家族関係コース」を開発し、誰でも簡単に親子関係を修復できるプログラムを提供する。

著書に「自分革命」(角川フォレスト)、本名「宮崎なぎさ」で「人生乗り換えの法則 望み通りの人生を創り上げるTAW理論」(講談社)などがある。

一色真宇のブログ [アメブロ 一色真宇](#)

言葉を使わない、魔法の子育て
「ストレスフリーの子育て術」

2014年2月14日第1刷発行

2015年9月15日第2刷発行

制 作 一般社団法人 国際TAW協会

所在地 〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 5-47-11

青山学院アスタジオ 302

T E L 03-6805-1828

国際TAW協会

検索

プログラムはこちらで学べます。



発行 一般社団法人国際TAW協会

¥300+税